

—第 25 回 デジタルアーカイブ研究会—

日 時 2025 年 11 月 23 日（日）14：00～16：00

開催方法 オンライン（Zoom を使用します）

コーディネーター：林 知代、江添 誠

プログラム

※発表時間は 10 分、質疑応答は 10 分です。

1. 地域文化研究者の研究活動の記録

（14：00～14：20）

林 知代（岐阜女子大学）

2. 震災資料の収集・保存・展示の課題とデジタルアーカイブ

（14：20～14：40）

水谷 嘉宏（人と防災未来センター資料室）

3. 自治体デジタルアーカイブの経済効果分析

～データサイエンスの活用～

（14：40～15：00）

笹山 和明（岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科）

4. 博物館資料の展示情報の記録と活用

—生成 AI を活用した資料情報構造化の試み—

（15：00～15：20）

渡邊 直子（岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科）

5. 生成 AI とジャパンサーチ API を活用した学習支援アーカイブ「Pondalar」の試作

（15：20～15：40）

木村 京子（デジタルアーキビスト）

6. 気候変動教育 S×UKILAM^{スキラム}構想

（15：40～16：00）

辻 修次（伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク）

デジタルアーカイブ研究会 研究会実施事務局（岐阜女子大学）

〒500-8813 岐阜市明德町 10 番地 岐阜女子大学文化情報研究センター内

電話：058-267-5301（日本デジタルアーキビスト資格認定機構）

第 25 回デジタルアーカイブ研究会 発表概要

※発表時間は 10 分、質疑応答は 10 分です。

1.	地域文化研究者の研究活動の記録 (14 : 00～14 : 20) 林 知代 (岐阜女子大学) 本学の地域文化研究所の所長である丸山幸太郎先生は、長年に渡り、岐阜県の地域文化研究の分野で第一人者として活躍されてきた。本研究では、先生のされてきた研究活動について、オーラルヒストリーを中心としたデジタルアーカイブ化を行い、地域文化の研究者の研究活動についてのデジタルアーカイブ化の方法について明らかにしていく。
2.	震災資料の収集・保存・展示の課題とデジタルアーカイブ (14 : 20～14 : 40) 水谷 嘉宏 (人と防災未来センター資料室) 1995 年 1 月 17 日の阪神・淡路大震災の発災から 30 年の節目の年を迎え、人と防災未来センター資料室では、震災資料の収集・保存・展示に関する様々な課題に取り組んでいる。磁気媒体、酸性紙、金属類の劣化、寄贈資料の整理遅延、メタ情報不足、展示の限界など多様な課題に対し、デジタルアーカイブ化やその他の対応を進めている。震災の記録と教訓を後世に継承するための活動を紹介する。
3.	自治体デジタルアーカイブの経済効果分析 ～データサイエンスの活用～ (14 : 40～15 : 00) 笹山 和明 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科) 沖縄県与那原町は Web や SNS で地域の魅力を発信し、記録はデジタルアーカイブ (DA) 化されているが、その効果は十分に示されていない。システムの安定した継続運用のためには、老朽化による再構築も必要であり、そのための予算確保が喫緊の課題となっている。本研究では、DA の経済的価値について、与那原町の行動記録や成果データをもとにデータサイエンスで定量化し、予算獲得の根拠とする可能性を検討した。
4.	博物館資料の展示情報の記録と活用 —生成 AI を活用した資料情報構造化の試み— (15 : 00～15 : 20) 渡邊 直子 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科) 博物館の展示の制作プロセスでは、キャプションや解説文など、資料に関する多様な情報が生み出される。本研究では、こうした展示の制作過程で作成される資料の関連情報も含めて記録し活用することを目指して、生成 AI を活用し、HTML と JSON を用いて資料情報の構造化を行い、検索が可能なページを試作する。また、教育活動や展示企画支援での活用の可能性について考察する。
5.	生成 AI とジャパンサーチ API を活用した学習支援アーカイブ「Pondalar」の試作 (15 : 20～15 : 40) 木村 京子 (デジタルアーキビスト) 本発表では、生成 AI とジャパンサーチ API を連携させ、教育利用可能な資料を自動抽出・提示する学習支援アーカイブ「Pondalar」の試作について報告する。公共データベースから権利情報を考慮して素材を安全に収集し、学習者が探究や創作に活用できるギャラリーを生成するプロトタイプを構築した。さらに、地域文化資源 (比企丘陵・谷津沼) を題材に、AI を介した学びとアーカイブ形成の新たな可能性を考察する。
6.	気候変動教育 S×UKILAM 構想 (15 : 40～16 : 00) 辻 修次 (伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク) 気候変動への対応は、ユネスコ地球科学セクションが最も重視する世界的な課題である。本発表では、これを受け構想中の気候変動を総合的に学ぶ多分野横断型 DA コンテンツを紹介する。このコンテンツは地球科学的現象である縄文海進を、考古学・歴史学の資料とリンクさせ学び周期的な気候変動の影響を認識するとともに、個別地域のハザードマップを用い気候変動により具現化するリスクをも実感できる内容とすることを目指している。